資料2－1

令和６年度の地域課題のまとめ

・地域課題は、多職種カンファレンス（6 件）、個別ケア会議（3 件）から抽出しています。

・1 つのケースで複数の地域課題が抽出されています。

・抽出件数が 2 件以上であった課題を多い順にまとめています。

・多職種カンファレンスは、本人を中心として「住み慣れた地域で生活を続ける」、「本人の望む暮らしをかなえる」ことができるよう、介護保険サービスにとどまらず、地域の資源を活用し、自立支援や介護予防の視点を意識しできるようケースを選定しています。バイアスがかかっているため、実際の地域課題とは異なります。

順位	項目	具体的な課題	解決の方向性	対応策
第１位 （5 件）	**地域資源** **移動手段の不足**	・高齢となり車の運転が心配。 ・バスの利便性が悪い。 （本数が少ない。コミセンの前に止まらない。乗り場が近くにない。ららぽーと発着になり不便。） ・デマンドタクシー以外の移動手段がない。 ・デマンドタクシーはあるが利便性が悪い。 （町外の病院に行くことができない。予約が取りにくい。乗り場が異なると乗り合わせができない。予約時に「デマンドで」と伝えないといけない。一時待機してもらえない。） ・送迎がないのでサロンに行けない。デイサービスを選択することになる。 ・乗り合わせるような移動方法が地域であるとよい。	・タクシー券、デマンドタクシー、巡回バスの周知啓発（知らない人もいる）する。 ・高齢者の移動手段の課題について担当課と情報共有を行う。	・令和７年度に公共交通対策室が新設 「東郷町地域公共交通計画」の見直しを実施
第１位 （５件）	**人材資源** **伴走者の不足** **（R6 年度から新設）**	・認知症カフェや運動教室等いろいろあるが、ハードルが高く感じる。場所はあってもそこをつなぐ人がいない。 ・デマンドタクシーがあっても予約することができない。予約を手伝ってくれる人がいない。 ・外出などちょっとした手助けや見守りがあればできることも、支援者がいないのでできない。 ・役割＋αのできることがあるとよい。（配食弁当で薬飲むように伝えるなど） ・情報が入らない、情報弱者がいる、歩けないと回覧板も回せない。 ・ケアマネジャー業務が膨大。 ・制度やサービスの情報をケアマネ以外でもつなげる人がいるとよい。	・地域のつながりのない人を誘い出す仕組みやつなぐ仕組みの検討する。 ・住民・専門職含めちょっとしたできることを増やし合い、隙間を減らす取組を検討する。	・多職種カンファレンス、ミーティングで相互理解、＋αでできそうなことを検討 ・2 層協議体の継続（「互助」の視点（住民同士工夫したり協力をしてできること）で情報交換やアイディアをだしながら、地域の担い手が増えることを目指す。） ・サロン、体操教室で互助の意識付けのミニ講話を実施

順位	項目	具体的な課題	解決の方向性	対応策
第３位 （４件）	**認知症 疾患に対する 理解**	・認知症の方の家族だと思われることに抵抗感がある。 ・別居の家族に認知症の理解がなく、現状の課題が共有できず支援がうまく進まない。 ・地域住民の認知症への理解がまだ普及されていない。 ・認知症の方が参加している活動のメンバーが、その人個別の状況や適した対応ができているか確認できる機会が少ない。	・地域住民に認知症の正しい知識を持ってもらい、支援者を増やすことが必要。 ・個別ケア会議等で、共通認識を持つことが必要。	・アルツハイマー月間、認知症サポーター養成講座等で広く周知を行う。 ・サロンや地区等ターゲットを絞った認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を行う。 ・個別ケア会議等の情報共有の場を設ける。
第４位 （３件）	**地域資源 周知不足**	・情報収集の方法が分かりにくい。 ・町発行の冊子等が浸透していない。 ・相談場所がいくつかあっても知らない人が多い。 ・周知している場所が少ない（目につかない）。 ・専門職にとっても制度を活用しきれていない。 ・地域資源が使い切れていない。	○専門職への周知 ・支援者に知ってもらう、活用してもらう、広めてもらうことが必要である。 ・各々が知っている制度や地域資源を共有し合う場や関係性が必要である。 ○住民への周知 ・分かりやすい、検索しやすい資料を作成する。 ・多様な媒体、機会、場所で周知する。 ・初めに相談する窓口（地域包括支援センターや役場等）の周知する。	・ケアマネ連絡会など会議の場での周知 ・多職種カンファレンス及びミーティングの場を活用した周知、顔が見える関係づくりや場の提供を実施 ・電子@連絡帳を活用した事業の周知。併せて、電子連絡帳の登録・利用促進のための研修や個別登録支援を実施 ・冊子やチラシの周知啓発と活用促進（各冊子の概要が分かるチラシ、QR コードやホームページを活用） ・医療機関、薬局等の人が集まる場やイベント等で資料の配布、掲示依頼 ・高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターの周知の継続
第５位 （２件）	**地域資源 通いの場の不足**	・近くに行きたいと思う通いの場がない。 ・趣味等の通いの場が少ない。 ・男性向けの社会参加の場所や男性が集いやすいサロンが少ない ・男性同士のつながりが分かりにくい。（地区ではなく、会社、学校、趣味など） ・男性の通いの場へのニーズが分かりにくい。（目的がはっきりしているとよい。）	・既存の通いの場、地区の活動を把握する。 ・通いの場に対する高齢者（特に男性）のニーズを把握する。 ・通いの場の立ち上げ、運営に係る助成金等の整備・周知する。 ・通いの場の立ち上げの支援を行う。	・「TOGO まちかど運動教室」、「健康たまり場」の充実 ・出張講座による活動支援の継続 ・思い出の語り場づくり活動支援事業（助成金）の継続 ・社会参加ポイントの周知 ・地域支え合いコーディネーターによる通いの場の把握、新たな活動の支援
第５位 （２件）	**地域資源 就労・ボランティア活動の不足**	・高齢者がボランティアとして働ける場所があるとよい。 ・認知症の方でも働ける・ボランティアできる場があるとよい。 ・お助け隊のようなものを作ってポイント制にするとよい。 ・自宅前で登下校時の見守りなどできる範囲で役割があるとよい。	・高齢者ボランティア手帳の周知を行う。 ・高齢者ボランティア手帳登録団体（活動の場）を増やす。 ・サロン等での役割づくり、理解者・支援者づくりが必要。 ・人と活動のコーディネートが必要。	・広報で高齢者ボランティア制度の周知 ・認知症カフェ等で役割を持ちながら参加してもらう。 ・地域支え合いコーディネーターの活動の中で、活動できる場等の情報を収集し、情報共有